

海洋環境防災調査研究会(石川県)



能登半島「海士岬」の海浜植物群落を防護ネットにより
漂着・飛散ごみから守る保全活動

助成区分 植樹 環境保全 調査・研究 教育・啓蒙

実施状況

状況①現地調査回数: 31回

状況②漂着ごみの回収回数: 3回

活動の全体目標に対する達成度

95%

活動目的

・外国製を含む漂着プラスチックごみから植物群落を守るため、海浜植生帯の前面に防護ネットを張り、ネット前面に集積した漂着・飛散プラスチックごみの効率的回収活動により里海の環境保全に寄与する。



活動内容

1. 防護ネットの設置と点検保守

- ・設置場所: 能登半島の「海士岬海岸」羽咋郡志賀町西海千浦
- ・設置規模: 防護ネット(園芸用ネット)高さ1m 設置延長 60m(支柱の間隔2m)
- ・設置工事: 2018年11月末(設置作業は業者に委託)
- ・設置・点検保守期間: 2018年11月~2019年10月



2. 防護ネットの漂着プラスチックごみの飛散防止効果の定期的調査

- ・調査期間: 2018年11月末~2019年10月
- ・調査頻度: 原則的には毎月1回とするが、冬期間や波浪警報、台風シーズンは調査頻度を多くした。
- ・調査方法: 防護ネットによる漂着プラスチックごみの集積・飛散状況を写真撮影し、専門家の指導助言を踏まえ効果を測定。



3. 漂着・飛散プラスチックごみの回収活動

- ・回収時期と回数: 2019年1月、2019年2月 2019年3月(3回)
- ・地元と協働作業で漂着・飛散プラスチックごみを回収。

成果

- ・予備調査の結果を踏まえ、防護ネットの高さを全て1mに統一し、延長を80mにしたことで、冬季の季節風での漂着プラスチックごみの飛散防止効果を高めることが出来た。
- ・防護ネットの背後の植生帯への漂着プラスチックごみの飛散を抑えることで、漂着物回収作業での植生帯の踏み荒らしを防止することが出来た。



工夫した点

- ・前年度の予備調査で防護ネットの高さを0.5mと1mの2種類で実施した結果、0.5mでは防護効果が薄いことが判明し、今回、防護ネットの高さを全て1mに統一。
- ・地元志賀町役場に事前連絡し、防護ネット区域外の渚の大量の漂着物はシルバー人材センターが回収を担当。



今後の課題

- ・今回、海岸法に基づく石川県知事の特別許可を得て、長い海岸線で部分的に防護ネットを展張。植生帯への漂着プラスチックごみの飛散防止効果を検証した結果、予想以上に効果のあることが判明したが、より効果を高めるためには、貴重な海浜植物群落全体を囲むように大規模に防護ネットを展張する必要がある。
- ・しかし、その費用の負担問題と海浜地での自然景観との関係から大規模な防護ネットの展張が許容されるかは、今後、行政当局が「石川県海岸漂着物対策推進地域計画」にどのように位置づけるかが課題である。